ニ手ヲ合悅泣シテ、關東ヘハ若者共ヲ差下テ候ヘバ、實ニ何事カハ侍ベキ、鳥風ナラバコソ此等ヲ差越テハ賴朝ニ勢付ベキ、皆々禦留ナン、憑シク候、勅定ノゴトク嚴島ヘ御伴仕テ、天下安穩ノ事ヲ祈申ベシトテ、俄ニ出シ立進テ御幸アリ、彼島ニ著セ給テ、御參社以前ニ、入道ト宗盛ト父子二人、院ノ御前ニ參ヨリテ、自餘ノ人々ヲバ被除テ、入道被申ケルハ、東國ノ亂逆ニ依テ賴朝ヲ可追討之由、御宣下ノ上ハ、不審候ハヲドモ、源氏ニ一ツ御心アラジト御起請アソバシテ、入道ニ給御座候ヘ、心安存ジ、イヨ〳〵御宮仕申候ベシ、此言聞召入ラレズハ、君ヲバ此島ニ捨置進セテ歸上候ナント申タレバ、新院少シモサハガセ給ハズ、良御計有テ、今メカシ年來何事ヲカ入道ノソレ申事背キタル、今明始テ二心アル身ト思フランコソ本意ナケレバ、彼起請イトヤスシ、イカニモイハンニ隨フベシト仰有ケレバ、前右大將硯紙執進セツ、入道近參テ耳語申ケレバ、其儘ニアソバシテタビヌ、入道披之拜テ、今コソ憑シク候ヘトテ、ホクソ笑テ大將ニ見セラル、宗盛此上ハ左右ノ事有ベカラズト申、相國取テ懷ニ入テ立給ケルガ、ヨニモ心地ヨゲニテ各御前ヘ參ラセ給ヘト申ケル時、邦綱卿被參タリ、アヤシト思ハレケレ共、人々口ヲ閉テ申事モナカリケルニ、重衡朝臣イカニゾヤト阿翁ニサヽヤキケレバ、打ウナヅキテ心得タル體也ケレ共、御伴ノ人々ハ其心ヲ得ズ、國庄ヲ給リ給ヘル歟、イカバカリノ悅シ給ヘルゾ、イト奢ク思ハレタリ、

破起請

〔宇治拾遺物語十一〕今はむかし村上の御時、古き宮の御子にて、左京大夫なる人おはしけり、○中略色ははなをぬりたるやうにあをじろにて、まかぶらくぼく、はなのあざやかにたかくあかし、くちびるうすくていろもなく、ゑめば齒がちなるもの、齒肉あかくて、ひげもあかくてながゝりけり、こゑはなごゑにて、たかくて物いへば、一うちひゞきて聞えける、あゆめば身をふり、かたをふりてぞありきける、色のせめてあをかりければ、あをつねの君とぞ、殿上の君達はつけてわらひける、わかき人たちの、たちゐにつけてやすからずわらひの、しりければ、みかどきこしめ